

2025~26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日

承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30

例会場 勝山市市民交流センター

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地

TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760

 URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>

Email:katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川博則 ■幹事 辻利津子

編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ
 ~ 縁(えにし)
 を継なぐ ~


第3097回 例会 (10月21日)
●会長スピーチ

会長 滝川 博則

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、例会にご出席いただきありがとうございます。まずは、10月18日土曜日に行われました「池ヶ原湿原のヨシ刈り」についてご報告いたします。

今年は福田委員長にとってのデビュー行事でもあり、当クラブからは6名のメンバーが参加されました。

澄んだ秋空のもと、爽やかな汗を流しながら、地域の自然を守る活動に貢献できたことを誇りに思います。ご参加いただいた皆さま、本当に疲れさまでした。

さて、この池ヶ原湿原ですが、大変嬉しいニュースがあります。

本年5月、全国草原の里連絡協議会が選ぶ「未来に残したい草原の里100選」に、池ヶ原湿原保全・活用協議会が選ばれました。

先日の開会式では、認定書が披露され、地元の長年の活動が正式に評価された形です。

勝山の自然と地域の努力が全国的に認められたことは、私たちにとっても大きな喜びです。

勝山ロータリークラブも、この池ヶ原湿原の保全活動に長年関わってまいりました。これからも地域の一員として、この貴重な自然を未来へつなげる活動を支えていきたいと思います。

本日のゲスト卓話には、今年の理科作品展で最優秀賞に輝いた荒土小学校6年生の丹後遼也さんにお越しいただき、その研究成果を発表していただきます。

丹後さん、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

勝山ロータリークラブは、昭和61年から理科作品展の最優秀賞受賞者に金メダルを贈っています。今年で39年目となる、私たちの誇るロングラン事業です。

子どもたちの科学への関心を育て、学ぶ喜びを応援する。これもまた「未来への投資」であり、ロータリーの精神そのものです。

丹後さん、ロータリークラブというのは、“まちのため、世界のためにいいことをしよう”という思いを持った人たちの集まりです。私たちは、あなたのように一生懸命努力する若い人を応援することを、とても大切にしています。どうか今日の経験を、自信と新しい発見につなげてください。



最後に、池ヶ原湿原の自然、そして子どもたちの未来。この二つを大切に守り育てることが、私たちロータリーの使命であると改めて感じます。

どうぞこれからも皆さんと力を合わせて、明るい勝山の未来を築いてまいりましょう。

幹事 辻 利津子
●幹事報告
◆到着物

○2024-25青少年奉仕事業報告書

○インタークト夏季研修報告書

○社協からこんにちは

勝山市社会福祉協議会

○青少年ふくい

青少年福井県民会議

●委員会報告
●奉仕プロジェクト委員会

小林 達治

11/16 (日) 市民活動ネットワークまつりと前日の準備に各2名程の協力参加依頼が来ています。
参加できる方は事務局まで。

織田 昌弘

●S A A

来週から上着・ネクタイ着用といたします。

山内 智子

●出席報告

10月21日 欠席4名 80.95%

10月14日 欠席3名 85.71%

笠松 誠一

池ヶ原湿原が草原の里百選に選ばれたことに

滝川博則・笠松誠一



本日 プログラム	ゲスト卓話 竹田式体操	11月4日 プログラム	ボーズマガライズRC 訪問報告会	11月8日 プログラム	I M みくに未来ホール	11月11日 プログラム	I M振替 休会
-------------	----------------	----------------	---------------------	----------------	-----------------	-----------------	----------

ゲスト卓話

ハネナガイナゴの生息地に関する調査 まぼろしのバッタをぼくのふるさとで！ イナゴを追いかけ続けた5年間の記録

勝山市立荒土小学校 6年 丹後 遼也さん



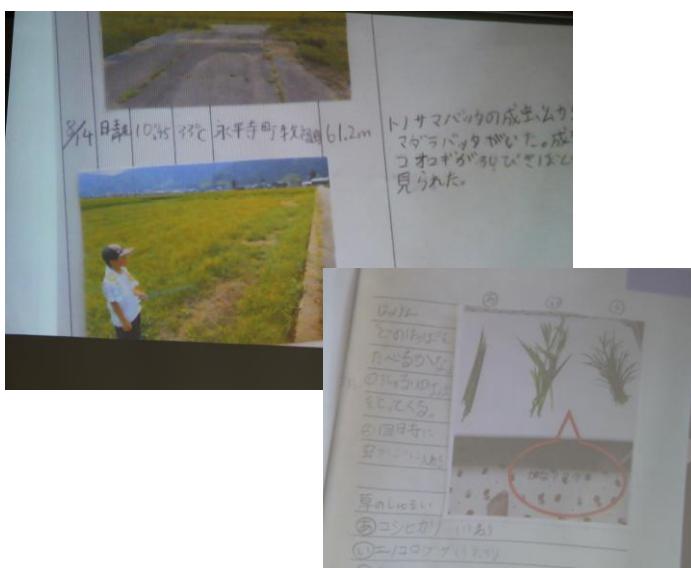
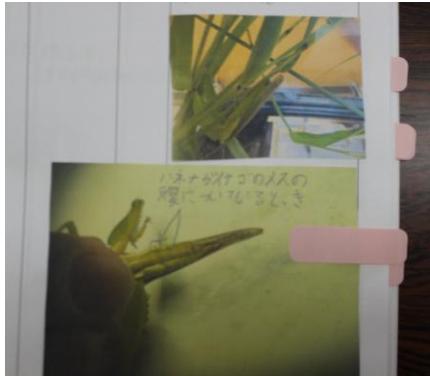
「私がハネナガイナゴの調査を始めたきっかけは、小学2年生のとき、自宅の庭で1匹のバッタの赤ちゃんを見つけたことでした。そのバッタが何という種類なのか気になって、図鑑「バッタハンドブック」で調べてみたところ、ハネナガイナゴかコバネイナゴのどちらかではないかと分かりました。

ところが、その図鑑には、ハネナガイナゴの分布域に福井県が含まれていないと書かれていたんです。『本当に福井にはいないのだろうか？』という疑問が湧き、それが調査を始める大きな動機となりました。



翌年からは、福井市自然史博物館の梅村学芸員の方に相談しながら、本格的な調査を始めました。

調査は5年間にわたって続け、梅村さんからの「ここにいそうだよ」という情報をもとに令和5年度には福井市の和田町と竹生町で、令和7年度には福井市久喜津町で、ハネナガイナゴの生息を確認することができました。



今年度は、イナゴの個体数が全体的に少なく、特に成虫よりも幼虫が多い傾向が見られました。

その原因としては、猛暑による成長の遅れや、カムムシの大量発生に伴う農薬の散布回数の増加、そして新しく使われ始めた『アルバリン』という農薬の影響が考えられます。

また、過去に行った餌の好みに関する実験では、コシヒカリに農薬がかかっていた可能性があることにも気づきました。

祖父への聞き取り調査からも、農薬の散布回数が従来の2回から3回に増えたことが分かり、特に今年からはイナゴ類に効果のある農薬が使われていることが分かりました。

調査では、田んぼの畦だけでなく中央部まで入って観察する必要があることも分かりましたし、葉が食べられている様子から、イナゴの生息を予測することもできるようになりました。

この研究を通じて、福井県でもハネナガイナゴが生息していることを確認できたことは、大きな成果だと感じています。

今後は、今年調査しきれなかった標高と生息地の関係について、さらに詳しく調べていきたいと考えています。



R7.8 今年見つけたハネナガイナゴをもとの自然に返す

この地図は、5年間にわたる広範な調査の成果を視覚的に示したものである。

調査地を地図上にマッピング。ハネナガイナゴが発見された場所を赤色、コバネイナゴが発見された場所を緑色、どちらもいなかった場所を黄色で示している。バッタが全く見つからなかった場所は記録していない。

福井県内でこれまで記録のなかったハネナガイナゴの生息地（赤色）が具体的にどこであるかを示し、研究の核心的な発見を裏付けている。

